

## <黄色靱帯骨化症>

東北のプロ野球のチームの監督が休養を余儀なくされたり、日本一につながるプレーオフ、日本シリーズで活躍した投手が克服してカムバックしたりと特に野球ファンの方はよく耳にしたのではないのでしょうか？  
今回は黄色靱帯骨化症について述べていきます。

黄色靱帯とは・・・脊椎の背側にあって各々の胸椎を縦につないでいる靱帯の事。

黄色靱帯骨化症・・・黄色靱帯がなんらかの原因で骨化して厚みを増し、神経が通っている脊柱管が狭くなり、神経の圧迫症状が出現してくる病気。男女比では性差はほとんど無く、年齢的には20歳以降にみられるが40歳以上が一般的。

欧米人に比較して明らかに日本人で高頻度に発生する。原因は今のところ不明。

症状・・・下肢の脱力やこわばり、しびれまた腰背部痛や下肢痛が出現する。痛みがない場合もあり、しばらく歩くときつくて歩けなくなり、休むとまた歩ける間欠性跛行をきたす事もある。重症になると歩行困難となり、日常生活に障害が出る事も。検査法としては、X線撮影・脊椎造影・CTscan・MRIなどが行われます。

ただ上記の症状は脊柱管狭窄症や、加齢からくる変形性関節症でも起こりえます。この様な症状を感じた場合は自分で判断せず早めに専門医に相談する事をお勧めします。